

見てわかる 金融力調査

第3回

海外との比較

金融広報中央委員会では、2012年9月に「金融力調査」の結果を公表しました。この調査は、日本における18歳以上の個人のお金や金融に関する知識や行動の特色を把握するために実施したものです。当委員会では、調査結果を活かして、世の中の人々が必要としている金融知識の普及や金融教育の支援を行っていきたく考えています。

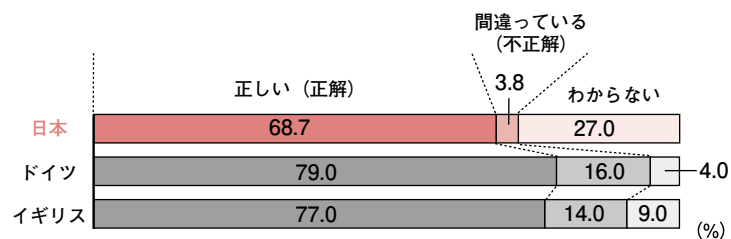
このコーナーでは、「金融力調査」の結果の一部を紹介し、エッセンスを分かりやすく説明します。

今回は、「海外との比較」についてです。「金融力調査」は、海外で行われた調査も念頭に置いて実施しました。比較可能と思われる結果の一部を紹介します。

リターンとリスクの関係についての質問では、日本の正答率は、ドイツやイギリスより低い水準でした。

問

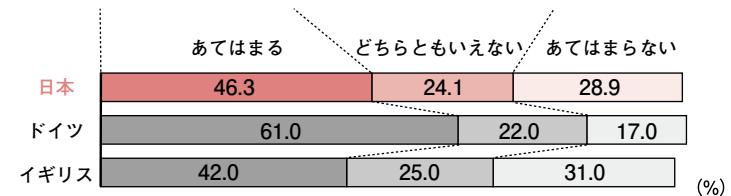
平均以上の高いリターンのある投資は、平均以上の高いリスクがあるものだ。



お金について長期計画を立てて達成しようとしている人の割合は、日本はドイツより低く、イギリスより高い結果となりました。

問

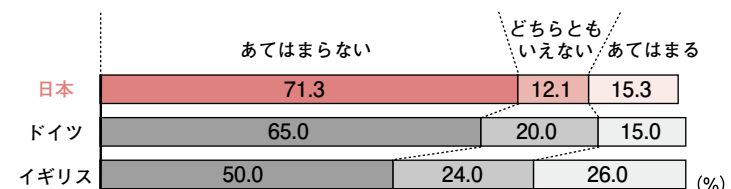
お金を貯めたり使ったりすることについて長期の計画を立て、それを達成するよう努力している。



「その日暮らしでよい」とは考えない人の割合は、日本はドイツやイギリスより高い結果となりました。

問

その日暮らしで明日のことは明日また考えればよいと考えがちである。



海外との比較は、金融に関するサービスや制度などが違うため、幅を持って見る必要がありますが、豊かな暮らしのために、金融経済の知識を身に付け、上手にお金をやりくりすることは、世界中どこの国でも大切なことです。